

令和6年5月27日 定例記者会見（報告）

1 日時 令和6年5月27日（月）13時00分～

2 会場 庁議室

3 出席者

<報道機関> 山形新聞、読売新聞、朝日新聞、毎日新聞、河北新聞、米沢日報
SAY、YTS

< 市 > 市長、秘書課長

4 会見項目

（1）本市などを舞台にした映画「好きでも嫌いなあまのじゃく」が公開されました。
近年はファンによる聖地巡礼など、経済活性化につなげる動きも多くあります。
このチャンスを生かすための、具体的な市の取り組みをお聞かせください。

（2）上杉まつりの誘客状況と、市長の受け止めをあらためてお聞かせください。

5 内容

○秘書課長

それでは定例記者会見を再開いたします。あらかじめ頂戴しております質問に付きまして市長がお答えします。それでは市長、よろしくお願いいたします。

○市長

ありがとうございます。

ご質問2点頂いております。

1点目は、先日公開されましたアニメーション映画「好きでも嫌いなあまのじゃく」についてのご質問であります。24日に劇場公開、そしてNETFLIXで全世界同時配信という形で「好きでも嫌いなあまのじゃく」が公開されました。今朝NETFLIXの「今日の映画」というランキングを見たところ、第8位にランキングされておりましたので、「出だしが大変好調で良かったな」と思っているところであります。

米沢市としては、市民の皆さんに対して5月11日に無料試写会を開催し、合計343名の方にご鑑賞いただき、私もお挨拶をさせていただきました。6月2日にはイオンシネマ天童、そしてイオンシネマ米沢の2か所で、声優の小野さんと富田さん、

また柴山監督を迎えての舞台挨拶上映会も予定しているところでございます。

ご質問のアニメツーリズムの展開についてであります。昨年11月に米沢アニメツーリズム誘客推進協議会を設立し、観光の関連団体はもとより地元のNCVさんや学生の方にも加わっていただきながら、盛り上がりを図っているところでございます。具体的には、近々公開しますが、米沢、置賜エリア、村山エリアの巡礼場所をシーンとともに解説した「ロケ地巡礼マップ」を作成いたしました。それぞれの観光地やロケ地に置きたいと思っています。更にはスタンプラリーを通して、ロケ地巡りをしていただきたいと思います。このスタンプラリーは無料のパターンと有料のパターンを用意いたします。グッズも用意しており、6月1日から来年5月24日までとなっています。なお、有料のパターンの方では、抽選でキャストや監督の直筆寄せ書きサインのプレゼントや缶バッジなどの景品を、無料のパターンの方では、缶バッジやステッカーを、それぞれプレゼントするといったことを展開していきます。所謂ロケ地を巡っていただけるような工夫を6月1日からスタートし、様々なことを通じて、若い世代の方、映画のファンの方々に米沢・置賜、また村山地方のロケ地を周っていただいて、経済活性化にも繋げていきたいと思っております。他にもいろいろな事業をやる予定しておりますけれども、資料の方をご覧くださいと思います。

2点目は、上杉まつりの誘客状況とその受け止めをということであります。上杉まつりの入れ込みですが、全体で16万8000人となっており、前年比では4万7000人減少ということであります。その内訳を申し上げますと、松が岬公園周辺地区では前年比1万9500人減の5万8500人、催事では前年比2万7500人減の10万9500人、合計で前年比4万7000人減の16万8000人となりました。

今年度のゴールデンウィークは、全国的に各観光地とも観光入込数があまり良くななく、減少ぎみということのようであります。その背景としては、連休が分散してしまったことや、ガソリンや様々な物価高、連休中の高速料金の休日割引が適用除外になったことなどにより旅行費用全体が高くなったことで、旅行控えが少々あったのかなと思うところでございます。また、山形県の状況で言うと、例えば寒河江の道の駅等の観光施設のリニューアルによって、県内の他の観光地を選ばれた観光客もいらっしまったのかなと思っております。このことから、上杉まつりへの集客が減少したのではないかなと思うところでございます。ただ同時に、今年だけの要因ではなく、コロナ禍を経験して、旅行客の動き方というのが、所謂大型バス、団体旅行というのではなくて、個人手配旅行に大きく変化し、旅行の構造自体がかなり変化したのではないかなということも考えられます。したがって、より個人の方がそれぞれの好みで、例えばSNSを見たりして、そちらの方に流れていき、細分化され、今までとはちょっと違った人の動きが出ているのではないかなということも考えられると思っております。例えば飯豊町の水没林ですとか、そういったところに行くお客様が非常に増えているといったことも聞こえますので、旅行の趣向というのも変わったのではないかなと思うところであります。

こうしたことから、川中島合戦や上杉まつりを担っていただいている観光事業者の方からも私のところに直接、「上杉まつりに危機感を持たざるを得ない。」というお声も寄せられているところでございます。伝統ある米沢上杉まつりは、米沢にとっても非常に大事なおまつりでありますので、先日の庁議において、私から上杉まつり自体をお客様目線に立った課題の洗い出しといったことも必要ではないか、場合によっては改善も必要ではないかといった問題提起をさせていただいたところでございました。大変良いおまつりではありますが、例えば川中島合戦も、基本的には25年前と全く同じ流れであり、おまつり全体がこれまでもずっと同じ内容であるということもでございます。それ自体は良い部分もあるのですが、リピーターの方々にとってどうか、いろんな課題をまず洗い出して見直してみることも大事ではないかと、担当部署に伝えており、その減少の要因を分析して、より魅力的なおまつりに改善していくことが必要ではないかと思っていますところでございます。受け止めということについては以上でございます。

○秘書課長

それではご質問をお受けいたします。進行につきましては幹事社にお願いしたいと思えます。

○記者

「好きでも嫌いなあまのじゃく」に関連してグッズのご説明がありましたが、先ほどの説明というのは全て抽選で当たった場合に貰えるグッズということでしょうか。

○観光課長

マップに関しては当然無料ということで配布させていただきます。また、スタンプラリーに関する景品等については、無料と有料に分かれておりますので、無料の方についてはスタンプラリーで周っていただいた方に対して、達成後に缶バッジとステッカーを差し上げるという形になります。有料については台紙が有料になります。それを買っていただいて、周っていただいて達成された方については、クリアファイルを差し上げます。このクリアファイル等については店頭に売っているものではなくて、オリジナルで、米沢市の風景をバックにした特別にデザインしていただいたものです。

○記者

それは有料でスタンプラリーの台紙を買って、達成すれば貰えるということなんですね。

○観光課長

そうです。

あともう1つ抽選でのプレゼントに関連してプレミアム試写会があり、その中で声

優お2人の方からサインをいただくことになっておりますので、それを抽選し、数名になりますが、当選された方に差し上げるということになります。

○記者

グッズのお話がありましたけれども、例えば市のオリジナルグッズとか、グッズの販売ブースを設けることは今後予定されておりますか。

○観光課長

2通りございまして、所謂配給会社で作っております通常の商品、クリアファイル等もありますけれど、そういったものは現在、映画館等にも置いています。それを各観光施設の方で独自で購入して販売されるところもあります。観光コンベンション協会さん、道の駅米沢さん、上杉城史苑さんで販売するお話をお聞きしております。あともう一つ、各事業者の方に、ぜひそういったコラボ商品を作っていただきたいというお話をさせていただいております。その中で、若干の店舗になりますが、そういったコラボ商品の様なものを作って販売したいという話も出ておりますので、今後、情報発信しながら、ぜひ商品という形で販売したいと考えております。

○記者

こういったブームは、一気に熱が上がって、下がるのが結構早いという印象もあるので、熱いうちに是非いろんな施策を打っていただきたいと思っているのですが、今現在、こういった様々なことをされている中で、市長として今後こういったものも必要ではないかとか、もし思いとかがあれば教えていただけますか。

○市長

私はあまり知見がありませんので、観光課長とか担当部署で検討してもらえればと思います。矢継ぎ早に様々なことをやっておりますので、やれることは一生懸命にやっているとっております。なかなか評判が良い映画のようです。私も見ましたが、結構面白かったといっている方が多いようです。作品自体は非常にきれいですし、なかなかいい映画だなと思いますので、本当に多くの方に見てもらいたいし来てもらいたいと思います。もちろん米沢だけでなく山寺とか、山形内陸全般が描かれているので、ぜひ多くの山形ファンの方に見てもらえる映画になってもらえればと思っております。

○記者

先ほどの説明の中で資料をご覧いただければと言っておられましたけれど、我々になんの資料もありません。

○観光課長

今日、お渡ししてない資料がありましたが、以前この事業に関して皆様にお集まりいただいて、お知らせさせていただいておりますので、今日はその内容によるものでございます。ただ、今回はプラスして追加事業、例えばマップやスタンプラリーの場所云々といった部分については、5月31日付のプレスリリースで、皆様にこういった事業を行うといったところをお知らせすることを考えておりますので、その中でまた問い合わせ等があれば、こちらの方で受付させていただきたいと思います。資料については、もし必要であればあとからお渡しすることも可能ですので、よろしくお願いします。

○記者

市長が「資料をご覧ください」と言っても、こちらが反応できなかった部分もあるんですけれども、当局が準備している資料の確認もなっていない状態で会見スタートされているということでは我々もつらいので、配布資料の確認を最初にやっていただきたいと思います。これは要望です。次回以降に反映していただければ我々も戸惑わないと思ったので、そこは次回以降お願いしたいと思います。

質問を続けさせていただきます。話を聞いていると、今回の内容を含め、様々な取り組みを公開に合わせてできなかったのかなと感じます。6月1日に始まるということですが、ここはどうお考えなんでしょうか。公開の3日ほど前ですが、公開に合わせてできた取り組みはなかったのかと、正直感じましたがどうでしょうか。

○市長

私はあまり感じなかったです。公開にすべて合わせるというのも一つでしょうけど、いろんな準備の都合でこういう形になったということ自体、舞台挨拶が6月2日ですので、その前に揃えたということなのかなと受け止めたところです。

○観光課長

若干補足させていただく部分ですが、当然5月24日の上映に合わせてということもあります。ただその中で段階的に準備してきたところもございます。24日に合わせてきたものとしては公式SNS、特設コーナー、等身大のパネル、ポスターの掲示等、各観光施設に設置させていただいたりしたところです。また、今回6月1日から行う部分であるマップやスタンプラリー等については当初5月24日で合わせてきたところがあります。ただこれがどうしても著作権の関りで、こちらですぐ許可が出るものと思っていたところがなかなか回答をいただけないという期間があったりしたところです。配給会社等も様々な準備で連絡や、許可が若干遅れてしまったということで今回、6月1日からとなったところでありますが、段階的に事業を進めておりますので、ご理解のほどをよろしくお願いいたします。

○記者

理解しました。著作権等背景があったということですが、個人的な意見になりますが、米沢市がPRにかける本気度を残念ながら感じられずにおりました。市の公式ホームページに「好きでも嫌いなあまのじゃく」がトップページにありますが、知りたい情報を探す検索窓の背景として使われています。この映画を見てくださいという伝え方で紹介していません。新着ニュースとか最新ニュースとか見ても、公開されたとの情報もありません。「好きあま」のこともありません。たぶん4月1日号の広報以降、市民がそんなに深く見ているとは私は感じないんです。そのあたり、公開で加速するのもかもしれないんですけど、どう捉えてどう動くかということを改めてお聞かせいただけますか。

○市長

貴重なご意見ありがとうございます。受け止めさせていただいて改善をしたいと思いますが、大事であるため記者会見で丁寧にお答えしているということです。ぜひよろしくお願いします。資料については今まで行ってきた施策を取り纏めた一覧表ですけれども、至急お渡しします。

○記者

繰り返しですけれども、NETFLIXで当日8位というのは本当にすごいことで、世界で8番目に見られているコンテンツの舞台が米沢市という、とてつもないチャンスなので、もっと本気度というか、加速度的にぜひやっていただきたいなのを最後に要望として発言したいと思います。

○観光課長

貴重なご意見をありがとうございます。これからだと思っております。

先ほども少しお話をさせていただきましたが、上映前ということもあって、情報の取り扱いの部分で配給会社からの規制が張られている部分がありました。ただ、5月24日をもって、そういったものが一切解かれましたので、只今いただいた意見も含めながら、積極的に誘客という形で進めていきたいと思っています。加えて、やはり地元の意識醸成、誇りを持っていただくという部分で、小中学生そして高校生の方にもチラシを配布し、見ていただくという取組みも今させていただいております。また、NETFLIXということもありますので、インバウンドの部分で多くの方から見ていただけるようなものも含めて、しっかり誘客に努めてまいりたいと思いますので、よろしくお願いします。

○記者

試写会は300人くらい入ったということでしたが、応募状況がどんなものだったか公開できますか。

○市長

無料試写会ということでしたが、12時から始めた部分が156名で、午後4時からの2回目が187名ということでした。当日キャンセルされた方もいたのですけれども、200席くらい客席数のところでほぼ満席だったのかなと思ってます。何倍の倍率だったのかということとはわかりません。

○記者

もし分かれば教えて下さい。

○観光課長

数字を纏めたものがございませんが、200席の会場でありまして、2回とも200名を超える応募をいただいたところではございました。その中で抽選させていただき、事前に200名で振り分けをしたのですが、当日来れない方というのは当然想定しておりまして、結果として1回目156名、2回目187名、合計343名というような数字になったところです。

○記者

この映画に関して、あまり気持ちよくないことが多々あったことも含めて確認しておきます。

まず、前提として、この映画は、市役所では観光課がご担当されてがんばっておられます。魅力推進課は全く関わっていないと聞きましたが、こういう市を挙げてPRしたいというイベントに対して、魅力推進課はどういう存在であると市長はお考えですか。

○市長

詳しい仕事の振り分け分かりませんが、魅力推進課ができたのが4月です。このプロジェクトを手掛けてきたのは観光課ということでした。この4月から魅力推進課がスタートしたわけですので、仕事のあり方として、ずっと主管でやっていたところが行うというのが、普通の流れであると思います。魅力推進課は魅力推進課で全く関わっていないかというのは分かりませんが、他の仕事をそれぞれ一生懸命やっているだろうと考えています。

○記者

今日、市長がスタンプラリーなどを資料を見せながら発表しましたが、プレスリリースは31日と伝えられていました。31日までは詳細は待ってくださいみたいなやり方は、ちょっと疑問に感じたので、できればここで発表をもって解禁できるように、積極的に調整していただければと思います。また、6月2日の舞台挨拶ですけれども、

聞くところによると、観光課にも確認しましたが、報道対応はイオン天童のみで、米沢では報道対応しませんという連絡がありました。ただ、私も試写会を見せてもらいましたが、試写会の時の声優さんの声が流れたのを見ると、自分たちはまだ山形にも行っていないので楽しみにしてますとおっしゃっていたので、それからすると、じゃあ米沢はいつ来たんだろう、もしかしたら今度6月2日が最初かもしれない、米沢に来た感想はどうですかみたいなことを、米沢としては発信する場だったんだろうと思います。配給会社の事情もあるかと思いますが、是非もっと米沢も積極的に関わって、せっかくのアニメなんだから、もっと強く押し出してほしいと思います。

○市長

ありがとうございます。解禁時期は配給会社の都合もありますが、私がこうしてお示ししている以上、この時期をもって解禁というのが報道の常識だと思います。今日をもって、特段何かどうしてもいけない制約がなければ解禁というのが筋なので、そういう方向で調整したいと思います。あと、イオンの件ですけど、声優さん2人は、その日、私と会う予定になっておりますので、なかなか報道の皆さん方に接してという調整が難しかったということだと思いますので、ご理解いただければと思います。

○記者

今の市長の発言ですが、スタンプラリーのことは、今日の夕方のニュースとか明日の新聞に、6月1日からやりますと言っていいんですね。

○市長

契約上、それでペナルティーがあるということがない限り問題ないと思います。せっかく皆さんに来ていただいて、会見しているので、この場での解禁とさせていただきたいと思います。資料の方は大至急用意しますので、必要なところを見ていただければと思います。

○観光課長

資料については、公開可能か確認させていただきながらお渡ししますので、よろしくをお願いします。

○記者

続いて質問ある方いらっしゃればお願いします。

○記者

上杉まつりの改善についてですが、先ほど市長が言ったとおりなんですけど、25年程変わっていないというのも事実です。変えなければいけない部分もきっとある。その洗い出しを行うということでしたが、市長自身が感じる部分として、こういう改

善の余地はあるといった印象というか、個人の印象になるかもしれないですけども、もしございましたら教えてください。

市長

色々あろうかと思います。1つは、市役所でかなり動員してやっています。市の職員が大変な苦勞でやっているんです。もちろん観光課、産業部は当然ですけど、企画調整部をはじめ多くの部署の職員が、本当に大動員で頑張っているんです。もちろん商工会議所も一生懸命やっている、観光コンベンション協会もです。観光課長もフラフラになるくらい、皆やっているわけです。歴代ずっとこれだけ力を注いで精一杯頑張っているんだけど、同じやり方で取り組んでいってもなかなかマンパワー的にもはや限界だと思うところもあります。四季のまつり全体のことと言うと、結構おまつりが多いわけです。ですから、次から次におまつりをこなしているというのが市職員や関係団体の現状です。となると、改善を考える余地もなく、次のまつりに移っていくということにもなるので、少しそこは比重を、集中するなら集中する。例えばですが、市職員の関わり方として、上杉まつりと雪灯籠まつりの2大まつりに注力していくということも、中身ではなくて、取り組み方の問題としてですが、場合によっては必要ではないかと思います。中身についてはいろいろな意見があろうかと思うので私がとやかく言うよりは、いろんな、まさに市民目線で、また、観客目線で、どう魅力のある、楽しいなと、来年も来たいなと思ってもらえるようなおまつりというのがあると思います。今日この場であえて申し上げるのは伏せたいと思います。そういうことからチェックできればいいと思います。今の現状だと忙しくて、評価する前に次の仕事をする必要があるため、観光課は大変だと思います。そのため、歴代観光課長とか、もちろん内部だけでなく、そういった問題意識を持っている人たちもいますので、少なくとも課題を洗い出しすことくらいは急いだほうがいいという感覚です。

元々持っているものは素晴らしいと思いますが、見せ方とか力の配分とか、やり方を検討していった方がいいのではないかと思います。

○記者

他に何かありますでしょうか。よろしいですね。それではお返しいたします。

○秘書課長

以上をもちまして令和6年度5月の定例記者会見を終わります。